

CONTENTS

ビジュアルヘルプ – Make.....	2
Make コマンドのヘルプ	2

Make コマンドのヘルプ

Make [*flags*] *waveName* [, *waveName*]...

Make [*flags*] *waveName* [= {*n0*,*n1*,...}]...

Make [*flags*] *waveName* [= {{*n0*,*n1*,...},{*n0*,*n1*,...},...}]...

Make コマンドは、指定したウェーブを作成します。

ウェーブを作成するときには、ウェーブデータに値を割り当てるために { } を使います。

フラグ

/B	8-bit 符号付き整数ウェーブ、または /U が指定されている場合は、符号なしウェーブを作成します。
/C	複素数ウェーブを作成します。
/D	倍精度ウェーブを作成します。
/DF	ウェーブはデータフォルダーへの参照を保持します。 詳細はマニュアル IV-78 Data Folder References を参照してください。
/FREE[= <i>nm</i>]	フリーウェーブを作成します。 関数内でのみ使用可能で、単純な名前またはウェーブ参照構造フィールドが指定されている場合のみ許可されます。 詳細はマニュアル IV-91 Free Waves を参照してください。 <i>nm</i> が指定され、ゼロでない場合、 <i>waveName</i> はフリーウェーブの名前として使われ、デフォルト名「_free_」を上書きします。 フリーウェーブの名前を指定する機能は、デバッグ支援として Igor Pro 9.0 で追加されました。 詳細はマニュアル IV-95 Free Wave Names と IV-207 Wave Tracking を参照してください。
/I	32-bit 符号付き整数ウェーブ、または /U が指定されている場合は、符号なしウェーブを作成します。
/L	64-bit 符号付き整数ウェーブ、または /U が指定されている場合は、符号なしウェーブを作成します。 Igor Pro 7.0 以降が必要です。
/N= <i>n</i>	<i>n</i> は各ウェーブが持つポイントの数です。 <i>n</i> が式である場合、括弧で囲む必要があります： Make/N=(myVar+1) aNewWave
/N=(<i>n1</i> , <i>n2</i> , <i>n3</i> , <i>n4</i>)	<i>n1</i> , <i>n2</i> , <i>n3</i> , <i>n4</i> は、各ウェーブの行、列、レイヤー、チャンクの数指定します。 末尾のゼロは省略できます（例：/N=(<i>n1</i> , <i>n2</i> ,0,0) ⇒ /N=(<i>n1</i> , <i>n2</i>)）。

/O	名前が競合した場合、既存のウェーブを上書きします。 上書き後は、ウェーブの内容を信頼できなくなることがあるため、再初期化するか、適切な値を割り当てる必要があります。
/R	実数値ウェーブを作成します（デフォルト）。
/T	テキストウェーブを作成します。
/T=size	あらかじめ割り当てられたストレージでテキストウェーブを作成します。 size は、各テキストウェーブの各要素にあらかじめ割り当てられたバイト数です。 ウェーブは初期化されていません。 初期化はユーザーの責任で行ってください。 ウェーブに非常に多くのポイントがある場合、ウェーブに割り当てられたすべての文字列があらかじめ割り当てられたサイズとまったく同じサイズである場合に限り、テキストウェーブの割り当てを劇的に高速化することができます。
/U	符号なし整数ウェーブを作成します。
/W	16-bit 符号付き整数ウェーブ、または /U が指定されている場合は、符号なしウェーブを作成します。
/WAVE	ウェーブはウェーブへの参照を保持します。 詳細はマニュアル IV-71 Wave References を参照してください。
/Y=type	次の「ウェーブのデータ形式」を参照してください。

ウェーブのデータ形式

/B、/C、/D、/I、/L、/R、/T、/U、/W のデータ形式フラグの代わりに、/Y=(numType) を使ってデータ形式を設定することができます。

numType の値については、WaveType 関数を参照してください。

/Y フラグは、他のフラグ形式を上書きします。

同じ関数内の代入文でウェーブを使う場合は、コンパイラによって作成される自動ウェーブ参照をコントロールするために、明示的なデータ形式フラグを使う必要があります。

詳細

フラグで上書きされない限り、作成されたウェーブは、デフォルトの長さ、形式、精度、単位、スケーリングを持ちます。

出荷時のデフォルトは：

プロパティ	デフォルト
ポイント数	128
精度	単精度浮動小数点
形式	実数
次元	1

x, y, z, t スケーリング	オフセット=0、Delta=1（ポイントスケーリング）
x, y, z, t 単位	""（空白）
データフルスケール	0, 0
データ単位	""（空白）

ウェーブ内の要素（行×列×レイヤー×チャンク）の最大許容数は、214,700,000,000 です。

注記

Miscellaneous Settings ダイアログで設定した推奨精度は、Make Waves ダイアログのチェックボックスをプリセットし、インポートしたウェーブの精度を決定するだけです。
これは Make コマンドには影響しません。

参照

SetScale, Duplicate, Redimension